

## てん茶向き品種のてん茶加工割合拡大による売上げ改善

対象者 甲賀市土山町 農事組合法人 G

### 【普及活動のねらい】

近年、抹茶原料の「てん茶」の需要が拡大していることから、G においては平成 30 年に大型てん茶工場を整備しました。しかし、全国的に多く栽培されている品種「やぶきた」のてん茶は、供給量が多くなったため単価は安値傾向にあります。

一方土山地域では、荒茶の付加価値向上のため、早くからかぶせ茶に着目し、「やぶきた」を被覆に適した「さえみどり」「おくみどり」「おくゆたか」「つゆひかり」「さみどり」等の品種（以下「てん茶向き品種」という）に改植してきましたが、これらの品種はてん茶としても評価が高く、「やぶきた」より 1kg あたり 1,000 円以上高い単価で取引されています。

そこで、てん茶向き品種のてん茶加工割合を高めて、G の売上額を改善することを目的に、課題となるてん茶向き品種の生産安定と面積拡大を図るため、適期の被覆開始の徹底、長期被覆に伴う樹勢低下を回避できる施肥体系の検討、新たなたん茶向き品種の検討、やぶきた改植の推進等による面積拡大などを支援しました。



てん茶工場内部の様子

### 【普及活動の内容】

まず、適期に被覆を開始できているか判断するため、てん茶向き 5 品種の茶園から 1ヶ所ずつモニタリング茶園を設定し、生育経過を数値化できるよう支援しました。次に、施肥体系の検討では、3 社の肥料を使用した 3 パターンの展示ほを設け、生育状況を比較しました。面積拡大策では、5 品種以外に新たなたん茶向き品種がないか選定するとともに、「やぶきた」を計画的にてん茶向き品種に改植するなどの支援を実施しました。また、こうした支援を実施するとともに、次年度の一番茶の収量確保のため、適期の秋整枝実施や赤焼病の徹底防除等についても支援しました。



モニタリング調査の様子

### 【普及活動の成果】

生育経過を数値化することによって、被覆開始時期では 1 品種を除きおおむね適正とされる 1.5 葉期に実施できるようになりました。施肥体系では土壌分析結果や生育経過から、S 社の肥料を使った体系が有望でした。また、面積拡大策では、新たなたん茶向き品種として 2 品種が有望であることがわかり、「やぶきた」1ha を「さえみどり」に改植しました。最後に、次年度の一番茶収量確保に向け、適期の秋整枝と「おくゆたか」など赤焼病が問題となった茶園で適期防除が実施できました。

当課は、今後も円滑なたん茶向き品種の活用拡大に向けて支援していきます。